

海水資源・環境シンポジウム 2015

－海水総合利用への展開と展望－

URL : <http://www.swsj.org/research/research-06.html>

これまで日本海水学会海水資源・環境研究会では、分科会において、海水総合利用プロセス開発における個々のボトルネック的課題について検討してきました。本シンポジウムでは、これらの検討結果および今後の展開について紹介します。

また、それとは別に、海水総合研究所がこれまで検討してきた海水総合利用プロセスを総括するとともに、今後の展開および展望について述べます。

主 催：日本海水学会 海水資源・環境研究会
共 催：公益財団法人 ソルト・サイエンス研究財団
日 時：2016年3月29日(火) 14:00～17:00
セミナー終了後、技術交流会を開催いたします。(17:15～18:45を予定)
場 所：千葉工業大学津田沼キャンパス7号館 4F7402 教室 (前回と異なりますのでご注意ください)
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1
J R 総武線/津田沼駅(南口)下車 徒歩1分
京成線/京成津田沼駅下車 徒歩15分
新京成線/新津田沼駅下車 徒歩3分
<http://www.it-chiba.ac.jp/institute/access/tsudanuma.html>
◇次ページのアクセスマップを参照ください◇

概 要：

○海水資源回収プロセスにおける膜の利用

神奈川工科大学 市村 重俊氏

海水資源回収プロセスでは、イオン交換膜と逆浸透膜が中心となります。一方、ナノろ過膜、限外ろ過膜、精密ろ過膜の利用も有効と考えられます。講演では、プロジェクト研究の成果とともに今後の膜利用に向けての課題や展望について紹介して頂きます。

○ハイブリッド化による太陽エネルギーの有効利用

中央大学 村瀬 和典氏

海水利用技術において、太陽エネルギーの利用効率を向上させるために、太陽光による光発電と太陽熱による淡水化装置とのハイブリッド化の有効性および複合化による有効な利用技術の動向について紹介して頂きます。

○分離膜を用いた塩分濃度差エネルギー回収技術の原理と技術動向

山口大学 比嘉 充氏

河川水が海に流れ込む河口付近などでは塩水と淡水が混合することで濃度差エネルギー (SGE) が発生します。分離膜を用いて、この SGE を電力に変換する技術には逆電気透析 (RED) 発電と浸透圧発電 (PRO) があります。講演では RED 発電と PRO の原理と技術動向について紹介して頂きます。

○海水総合利用プロセスにおける資源回収と今後の展望

公益財団法人 塩事業センター 海水総合研究所 長谷川 正巳氏

これまで同氏が中心になって検討を進めて参りました海水総合利用プロセスについて総括するとともに、今後の展開および展望について述べます。

参加費：3,000円

申込方法：氏名、所属、連絡先(住所、電話番号、E-mail)を以下の申込先にE-mail等でご連絡下さい。

申込・問合せ先：〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂4-13-20

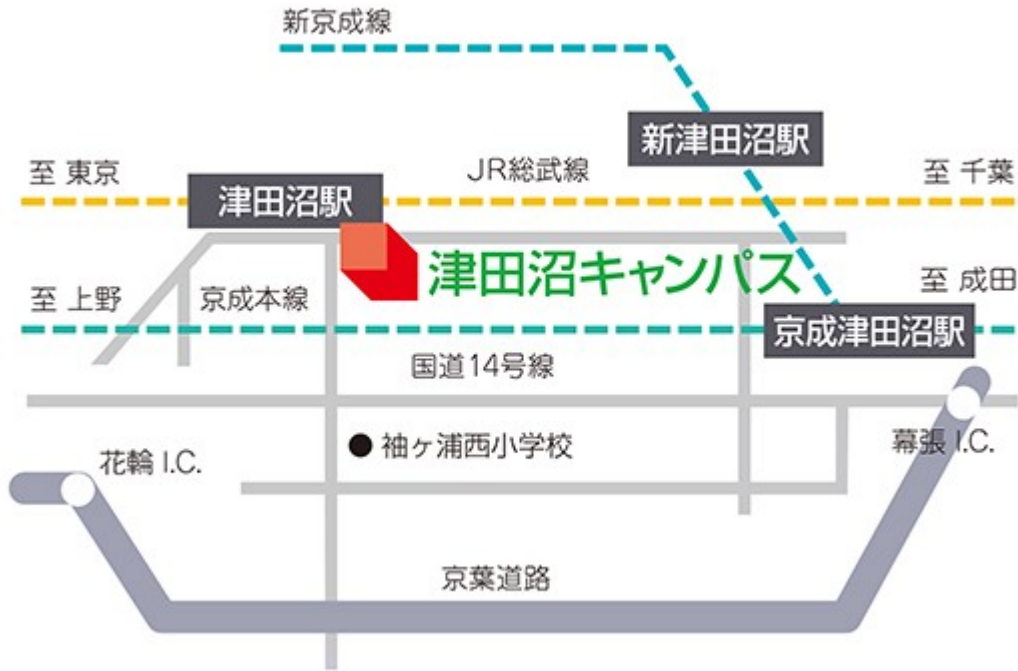
公益財団法人塩事業センター海水総合研究所 (担当：加留部, 鴨志田)

Tel: 0465-47-3161, E-mail: shigen@swsj.org

申込締切：3月25日

当日の問合せ先：090-3473-5113(鴨志田)

千葉工業大学津田沼キャンパスアクセスマップ



千葉工業大学津田沼キャンパス内マップ

